

経営協議会の学外委員からの意見を法人運営の改善に活用した取組事例

日付	回数	委員からの意見	日付	回数	回答状況	取り組み状況
22.6.8	第19回	教育設備に関して、総研大は最先端の研究所において大学院教育を行うことを特徴としている中で、研究所のもつ機器より劣る性能の機器を要求することは自己矛盾思われるかもしれないが、本当に教育だけに必要な機器というものを要求していくことが必要ではないか。	23.6.17	第22回	日本歴史研究専攻(国立歴史民俗博物館)から、教育に最も適した原子吸光分析装置が要求されており、24年度概算要求を行っていく。	平成24年度概算要求(特別経費)
		10年先20年先の将来像	23.6.17	第22回	総研大は研究者を養成することに焦点を当ててきたが、これからは、企業が何を望んでいるかをしっかり捕らえる必要がある。教育・研究も大事であるが、「開発」という言葉が出てきているので、企業に入ってから開発に対する関心が高まると同時に、即戦力となることが非常に望ましいと思うので、開発コースは積極的にいき、今後の総研大はここを中心にしたらどうかと感じている。	大学共同利用機関における総合研究大学院大学との関係の在り方について(平成24年8月1日まとめ)での検討等
			24.3.16	第24回	研究所の本来業務として教育を位置付けるという方向に動きたいと思っている。	
			24.3.16	第24回	研究者倫理の意識を持った若手が2年、3年と上がっていくに従ってどんどん増えていき研究室の雰囲気も変わっていることを念頭においている。他大学においても徐々に普及していると感じている。	
24.3.16	第24回	年度経営計画の前提として、将来像に対する経営課題	24.3.16	第24回	大学共同利用機関と国立大学の機能強化という議論があり、今までは大学共同利用機関は総研大の教育にびったりと寄り添っていたが、これからはそれとは相違する要素が入ってくるため多少注意する必要がある。	
22.11.11	第20回	志願者数の減少問題など、根本的に議論すべきである。	23.6.17	第22回	学生支援担当の学長補佐を交えて分析したい。	入学定員の見直し等も含め検討中
23.3.8	第21回	ユニークな研究大学院大学であることを強調してきたが、そのユニークなところが具体的にどう展開できるかが重要なところである。研究機関の特徴を生かしたユニークな大学院大学として、いかに発揮するかという視点に勝負どころがあると思う。	23.11.8	第23回	今年4月に設置した教育研究委員会で、総研大の特色ある教育研究について議論しており、文系も理系もない総合型の教育プログラムを策定して欲しいと指示しているところである	特別教育プログラムの創設等(平成24年度～)